

# コロンビア

## 商機は和平後に

ジェトロ海外調査部米州課 中畑 貴雄

政府と左翼ゲリラ・コロンビア革命軍（FARC）との内戦は、終結に向けて動き出している。和平合意は議会による承認も終わった。今後は合意内容を確実に実施するための立法プロセスが始まる。和平が実現すると、インフラ投資、資源開発、アグロインダストリーの各分野にビジネスチャンスが生まれるものと見込まれる。

### 和平合意内容の実施プロセス始まる

FARCはキューバ革命を手本とする社会主義政権の樹立を掲げ、1964年以来50年余りにわたってコロンビア国内でゲリラ闘争を展開してきた。現在の構成員は推定7,000人とされ、麻薬取引にも深く関わっている。政府とFARCの間では、2016年8月24日にキューバの首都ハバナで和平交渉の最終合意に達した。だが、和平合意の内容を実行に移すための条件であった10月2日の国民投票において僅差で否決されてしまった。その後、一時的停戦合意を延長した上で、FARCの犯罪に対する処分の甘さといった合意反対派が問題視する内容を一部修正し、11月24日に首都ボゴタの国立劇場で新たな和平合意文書へ署名した。

サントス大統領は「議会は国民の代表である」として再度の国民投票は行わず、議会承認を目指し、11月末には上下両院で新和平合意が承認された。和平合意を迅速に履行する目的で、議会は7月7日付で「和平のための特別法令」を承認し、同法令を根拠にファストトラック（優先審査）による法制化を進める案も出されたが、反対派からは憲法裁判所に対する異議申し立てが行われていた。同裁判所は12月13日、同法令を合憲と判断した。これにより、憲法改正や新たな関連法令の立法プロセスを通常の8回の討議ではなく4回の討議に短縮でき、和平合意内容が6カ月間で履

行可能となる。さらに大統領には、法律と同等の効力を持つ政令の公布権限も付与される。

和平合意が議会で承認され、憲法裁判所によるファストトラックの承認も下りたため、今後は恩赦法などの、和平合意を実施に移すための国内法整備が進められる。同時並行的にFARCの武装解除が進められ、17年5月末までに完了する予定だ。

### インフラ・資源開発・アグリビジネスに商機

和平実現後（ポスト・コンフリクト）のコロンビアでは、どのような分野で商機が生まれるだろうか。政府や産業界、内外の専門家の意見を集約すると、主に①インフラ整備、②資源開発、③農業・農村開発、の3分野で商機が生まれそうだ。

①については、国防省によると、FARCの軍隊が存在する市町村は、全国1,100市町村のうち117市町村である。紛争地域における人口は多くはなく、完全な紛争地域ではない中間的位置付けの市町村もある。そうした中間地域まで合わせると360市町村あり、約600万～800万人が暮らしていると推定される。財団「平和のための理念」のマリア・ビクトリア・ジョレンテ専務理事によると、これらの市町村における公共インフラは明らかに不足しており、未電化で上下水道が整備されていないところもある。インフラ需要としては、交通や基本的なライフラインの整備に加え、分散型再生可能エネルギー源（太陽光、風力、小水力など）による発電（電化）事業や燃料供給関連ビジネスも考えられる。コロンビアでは再生可能エネルギー発電は遅れているが、水資源は世界平均の5.6倍と豊富であり、有効活用が期待される<sup>注</sup>。政府はインフラ投資の資金調達で民間資本を積極的に活用する計画であり、ペルーの政策をモデルとし、地方の社会インフラに投資し

表 未利用の農地面積（放牧用地を含む）が大きい上位20カ国（2014年）

（単位：1,000ヘクタール、%）

国名	国土面積	農用地			比率		
		耕地	永年作物地	放牧・未利用地	農用地 / 国土	未利用 / 農用地	
中国	956,291	514,553	105,700	16,020	392,833	53.8	76.3
オーストラリア	774,122	406,269	46,957	350	358,962	52.5	88.4
米国	983,151	408,205	154,605	2,150	251,450	41.5	61.6
ブラジル	851,577	282,589	80,017	6,572	196,000	33.2	69.4
カザフスタン	272,490	216,992	29,395	132	187,465	79.6	86.4
サウジアラビア	214,969	173,647	3,502	145	170,000	80.8	97.9
モンゴル	156,412	112,937	567	5	112,364	72.2	99.5
アルゼンチン	278,040	148,700	39,200	1,000	108,500	53.5	73.0
ロシア	1,709,825	217,722	123,122	1,600	93,000	12.7	42.7
南アフリカ共和国	121,909	96,841	12,500	413	83,928	79.4	86.7
メキシコ	196,438	106,705	22,993	2,677	81,035	54.3	75.9
アンゴラ	124,670	59,190	4,900	290	54,000	47.5	91.2
スーダン	184,697	68,186	19,823	168	48,195	36.9	70.7
チャド	128,400	49,935	4,900	35	45,000	38.9	90.1
モザンビーク	79,938	49,950	5,650	300	44,000	62.5	88.1
ソマリア	63,766	44,125	1,100	25	43,000	69.2	97.5
コロンビア	114,175	44,913	1,675	1,873	41,365	39.3	92.1
モーリタニア	103,070	39,711	450	11	39,250	38.5	98.8
ナミビア	82,429	38,809	800	9	38,000	47.1	97.9
マダガスカル	58,730	41,415	3,500	620	37,295	70.5	90.1

資料：国連食糧農業機関（FAO）統計データベースを基に作成

た企業に対する税額控除の制度を導入する計画だ。

②については、紛争被害が深刻であったベネズエラとの国境地帯やエクアドルとの国境地帯に豊富な石油資源が存在するとみられている。15年末時点で原油の可採年数が5.5年しかないコロンビアにとって、紛争終結による資源開発の加速化への期待は大きい。またペルーやチリと同様、アンデス山脈が南北に走る国土を有しており、非鉄金属資源鉱脈が存在する可能性もある。

③については、「2014年全国農業センサス（CNA 2014）」によると、コロンビアの農業用地（農牧業に適した土地）は全国で4,300万ヘクタールある。そのうち作物が実際に収穫できる土地は710万ヘクタールのみ。農業に適した土地のうち、内戦により放棄された農地だけで600万ヘクタールに及ぶとされ、内戦終結による農地拡大効果は大きいと想定される。国連食糧農業機関（FAO）のデータを用い、農地拡大ポテンシャルを国際比較すると、コロンビアは農業用地に占める未利用の土地の比率が非常に高く、農地拡大ポテンシャルが高い国といえる（表）。

## 農村開発に日本の技術

政府はポスト・コンフリクトの開発政策の重要な柱として経済の一極集中回避（地方経済の活性化）を掲

げている。同政策の鍵を握るのが農村開発だ。欧州や韓国、日本などの諸外国政府も、ポスト・コンフリクトにおけるコロンビアの農村開発支援に着手しており、同分野における経済協力が今後活発になると見込まれる。日本はどのような分野でこうした農村開発に貢献し、また商機を見いだすのか。

コロンビアの農業経営においては、技術の継承（後継者不足や国内避難民といった新規農業者への技術継承の困難さ）、アメリカなどとの自由貿易協定（FTA）締結による安い農作物との競争（コロンビアでは水利用効率、肥料利用効率が低い）、エル・ニーニョやラ・ニーニャなどの気候変動への対応、農作物のバリューチェーンがないことによる国際価格下落への耐性の欠如……などの課題がある。これらに対し、政府機関やコメ生産者

組合（Fedearroz）などの業界団体、大学やベンチャー企業などによる「精密農業（Agricultura de Precisión）」の取り組みが始まっている。

精密農業とは、センサーやITなどを駆使したスマートテクノロジー、ソフトウェアやアプリを通じた生産管理技術などの多様な技術を組み合わせることによってリスクを管理したり、付加価値を付けたり、伝承すべき技術を「見える化」したりする新しい農業経営手法である。一般に精密農業においては、①計測・記録技術、②制御技術、③解析・計画技術という三つの技術が重要になるが、日本の優れたセンサー技術を用いた計測と制御、スマートフォンで手軽に使える農業関連アプリ（病害虫の情報や農薬散布時期の共有アプリ、どの作物をどの圃場<sup>ほじょう</sup>でどのくらい生産すれば利益が上がるかという経営指標を示すアプリなど）を用いた解析と計画のソリューションなどは、コロンビアでも商機があるだろう。比較的小規模農家が多い同国においては、日本型の精密農業が受け入れられる余地があると指摘する専門家もいる。また精密農業により農家のビジネスの選択肢が広がれば、日本の優れた農業機械を購入する機会も増えると期待される。



注：全国水資源調査（2014年）によると、1平方キロメートル当たりの1秒単位の流量は56リットル。世界平均は同10リットル、ラテンアメリカ平均は21リットル。